

KYOEI NEWS



共栄システム株式会社



〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目15番7号

TEL(06)-6535-7511 FAX(06)-6535-7517

e-mail osaka@kyoeisystem.co.jp

URL http://www.kyoeisystem.co.jp

〈運送会社の経営情報〉



乗務員の休息時間にも影響！

先頃、厚生労働省が「勤務間インターバル制度(=社員が職場を退社し、翌日出社するまでに一定の時間を空ける制度)」を導入した企業に最大100万円の助成金の支給を検討しているとの報道がありました。これについては、安倍内閣の重点施策である「ニッポン一億総活躍プラン」に盛り込まれるとのことでした。

「勤務間インターバル制度」は、現在 EU 諸国で導入されているもので、勤務終了後から次の勤務開始までに一定の休息時間を設ける制度です。

①24時間につき最低連続11時間の休息を付与すること、②7日ごとに最低連続24時間の休息日を付与すること、③週の平均労働時間が時間外労働を含めて48時間を超えないこと、というのが主な内容です。

厚生労働省では、長時間労働抑制のため、にこの制度の普及を図りたいことから、助成金の支給を検討することになりました。

助成金の受給には、制度を導入して就業規則に明記し、目標の数値を盛り込んだ計画書を提出することなどが必要になるようです。要件等の詳細はこれから発表されますので注目しておいたほうがよいでしょう。

ただ、トラック運転者の場合は、改善基準告示で、インターバルの時間は、「拘束時間」「休息時間」という概念で既に導入されています。

トラック運転者の1箇月の拘束時間(始業から終業まで休憩時間を含む時間)、休息時間は以下のとおりです

①1日(始業時刻から起算して24時間をいいます)の拘束時間は13時間以内を基本とし、これを延長する場合であっても16時間が限度です。

②1日の休息期間は継続8時間以上必要です。

拘束時間と休息期間は表裏一体のものであり、1日とは始業時刻から起算して24時間をいいますので、結局、1日(24時間)=拘束時間(16時間以内)+休息期間(8時間以上)となります。



◆「勤務間インターバル」制度の先を見据えることの重要性

ただ、実際の運用面を見ると、例えば8時間労働で週5日勤務(通勤に片道1時間、休憩は1時間)の場合に、12時間のインターバルを設けたとすると、午後9時に退社し翌日9時出社という生活になります。また、通勤時間を除くと実質的には10時間の休息となります。さらに残業時間で見ると、1日3~4時間、月80時間の残業となり、これは過労死ラインぎりぎりの数値で、最低限度のものと考えられます。

また独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所の発表によると、今後の課題として、①働く時間帯によるインターバルの効果、②特に心理的ストレスの高い勤務についてのインターバルの長さの設定、③インターバルの中身(休息の過ごし方)などを検討する必要性を指摘しています。

※※共栄ニュースはeメールによる配信も承ります。※※

ご要望の際はメールアドレスをFAX(06-6535-7517)までご連絡ください。



貴社名		アドレス	
-----	--	------	--